微力だけど 無力じゃない

―高校生平和大使との交流から学んだこと―

直方市長　壬生隆明

10月22日、大和青藍高校「なでしこホール」において、「高校生平和サミット」を開催しました。

直方市は、平成23年から高校生平和大使を招き、地元の中学生・高校生との交流と対話を通して、若い人たちが平和について考える場を作っています。高校生平和サミット2回目の今回、私は初めて参加しました。

高校生平和大使は、核兵器の廃絶と世界の平和を願う広島・長崎そして日本の市民の声を世界中に届けるために、1998年に結成され、結成から18年間で約170人の高校生平和大使が活躍しています。今年は約500人の応募があり、北海道から長崎までの22人の高校生平和大使が選ばれました。

高校生平和大使は、アメリカのニューヨークにある国連本部やスイスのジュネーブにある国連欧州本部を訪れ、国連軍縮会議を傍聴し、軍縮局で核兵器の廃絶を訴えるスピーチをするなどの活動をしています。また、核兵器の廃絶と世界の平和を願う高校生の声を国連に届けるために高校生自身の取り組みとして「高校生1万人署名活動」を、国内はもとより国外でも行っています。こうした高校生平和大使の活動は、マスコミでも取り上げられていろいろな形で報道されていますから、その活動についてご存知の方も多くいらっしゃるのではないかと思います。

今年は、長崎と福岡から4人の高校生平和大使が来てくれました。地元からは、大和青藍高校、筑豊高校、鞍手高校、鞍手竜徳高校から合計17人の高校生が参加してくれました。

さて、会議は高校生平和大使、地元の高校生、引率の先生や私なども含めて5つのテーブルに分かれ、それぞれテーブルを移動しながらいくつかのテーマについて話し合いました。

例えば、「平和だなぁ、って思う瞬間」「平和って何だろう」「平和のためにできることは何か」などのテーマが次々と提供され、それぞれのテーブルで話し合い、次いで、テーブルを移動して他のテーブルでの議論の内容をそれぞれ報告して持ち寄り、各テーブルごとにまとめの発表がありました。

「平和」というとなんとなくわかっているようでわかっていないものです。いざ「平和って何だろう」と考え始めるとなかなか答えが出ないものです。「平和だなぁ、って思う瞬間」とはどんなときかなと考えてみたものの、行き着くところは「好きなものを食べているとき」など、なんとなく過ぎていく日常の間延びした時間の感想めいたものしか考えることができませんでした。しかし、普段考えることがないことを考える経験は貴重なものでした。

そして、最後に高校生平和大使と地元の高校生がひとつの輪になって、参加者一人ひとりが感想を話してくれました。

地元の高校生は「平和大使の存在を初めて知った。同じ高校生が海外に行って署名を集めたりしているので、私たちも学校でできることをしていきたいと思った。」「今回参加するまで戦争や平和って自分には全く関係ないものと思っていた。他校の人の意見や平和大使の意見を聞いて、他人事ではなく、自分たちで考えるべきものだと思った。自分たちの意見を他の人にも伝えることも大切だと思った。校内で署名活動やボランティア活動を通してもっと他の高校生や小学生、大人などに伝えていければいいと思った。」などと感想を聴かせてくれました。

高校生平和大使も、「他の高校生との交流は初めてでとても刺激になった。こうやって平和について語り合えてよかった。みんなも頑張ってほしいと思った。」「同世代と平和について意見交換ができて本当によい刺激になった。私たちの活動に協力したいとの意見を聞けて、この行動をしてよかったと思った。」などと感想を語りました。

地元の高校生だけでなく、高校生平和大使にとっても実りある時間だったことがわかりました。協力を表明した地元の高校生は、さっそく、翌日の福岡市内で行われた高校生1万人署名活動に参加しました。

私は、このサミットに参加して本当に良かったと思いました。同年代の若い人たちが交流し、対話し、心と気持ちを通わせ、「自分で考える」ことと「自ら活動する」ことの大切さを学んでくれたことに感動しました。さらに、大人である私たちが若者たちのために何をなすべきかということも考えさせられました。

そして、高校生平和大使がその日々の活動の中で自分たちに言い聞かせている言葉に心を打たれました。それは「微力だけど無力じゃない」という言葉です。この言葉の中には、高校生平和大使のかけがえのない志と使命感が充ちています。

この街に住む私たち一人ひとりが、この言葉を胸に抱きながら行動すれば、この直方の街はきっと未来に向かって大きく拓かれることでしょう。

この街からも高校生平和大使が誕生することを願っています。